



「見たり、聞いたり、探ったり」No.278

通算 No.429

青木行雄

野球・WBC 日本優勝に乾杯

(2023年(令和5)3月22日)

野球の国・地域別対抗戦、第5回ワールド・ベースボール・クラシック(WBC)で日本は3月21日(日本時間22日)、米マイアミで行われた決勝戦で前回王者の米国を3-2で破り、2009年(平成21)の第2回大会以来、3大会ぶり3度目の頂点に立った。

今回日本WBC制覇への歩み(2023年(令和5)3月)

1次リーグ	日本	8-1	中国											
	〃	13-4	韓国											
	〃	10-2	チェコ											
	〃	7-1	オーストラリア											
準々決勝	〃	9-3	イタリア											
準決勝	〃	6-5	メキシコ											
決勝	米国	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0			2
	日本	0	2	0	1	0	0	0	0	0	×			3

大会を通じて投打で活躍し、大会最優秀選手(MVP)に選ばれた大谷翔平は「この大会で優勝することを目標の一つにしてきた。いいチームメイトと野球ができて、今後の野球人生においても素晴らしい経験になった」と語ったという。

決勝戦で日本は2回に0-1で村上宗隆の同点ソロなどで2点を挙げ、4回には岡本和真の本塁打で1点を追加、8回にソロ本塁打を浴びたが、9回に7番手で登板した大谷翔平が1点のリードを守り切って優勝した。日本は1次リーグから7戦全勝で第3回目のドミニカ共和国優勝以来の全勝優勝となった。

はらはらしながら見ていて、野球の神様に導かれたように思えた。1点リードの9回2死走者なし、抑えでマウンドに上がった大谷翔平が対峙したのは、エンゼルスエンゼルスの同僚・トラウトと、「最後の最後で対戦するとは思わなかった」、一球一球、力のこもった球を投げると、最後はスライダーで米大リーグを代表する打者のバットに空を切らせたからぶりであった。「間違いなく今までの中でベストな瞬間かも知れない」日本が誇る二刀流の切れわざであった。やったぞという表現がクラブも帽子も放り投げ、走りより、捕手の中村悠平と抱き合った、感動の一瞬である。

終わってみれば、大谷翔平による大谷翔平のための大会だったと言えるかも知れない。

1次リーグ初戦の中国戦で、“開幕投手”を務めると、その後も看板直撃の本塁打をはじめ、三盗にセーフティーバントと大会を通じて暴れ回った。そして米メディアが「ハリウッド映画を見るようだ」と報じた準決勝に勝った時と優勝シーンはまさに野球の魅力を存分に表現したドラマのようだった。

大谷翔平のプレーだけではない。準決勝のメキシコ戦では1点ビハインドの9回、先頭打者として二



大谷翔平の優勝会見



村上宗隆の優勝会見

塁打を放つと、塁上で両手を振り上げ、ベンチを鼓舞、村上宗隆のサヨナラ二塁打を呼び込んだ。

スター選手が居並ぶアメリカとの決勝前の円陣では「有名なメジャー選手達に憧れるのはやめましょう。憧れてしまっただけでは超えられない。僕らは超えるために、トップになるために来た。憧れを捨てて、勝つことだけを考えていきましょう」、精神面でもこんなせりふを円陣で話し、日本チームを引っ張ったといわれる。

大谷翔平は多くの期待を背負いながらも、すごいプレッシャーの中WBCを心の底から楽しんだようだ。

大谷翔平は2018年(平成30)に海を渡って5年。コロナ禍の中球団エンゼルスがプレーオフ進出すら果たせない中、一発勝負の短期決戦に飢えていたのか、大谷翔平は少年時代からこのWBCに参加することを夢見てきた大舞台だった。

大谷翔平引きいる栗山監督を初め日本選手達に乾杯の祝杯を上げたい。

そしてWBCの優勝、世界一に導いた監督、「栗山英樹」氏の事をくわしく紹介しよう。

今回のWBCで3大会ぶりの優勝を果たした日本代表「侍ジャパン」、大谷翔平やダルビッシュ有、村上宗隆ら日米で活躍するスター選手がそろそろチームを世界一に導いたのは、国立の東京学芸大からドラフト外でプロ野球入りし、引退後はスポーツキャスターを務める一方、大学で教鞭を執るなど異色の経歴を持つ栗山英樹氏なのである。

決勝戦、9回表、いつものようにベンチの最前列で大谷翔平の投球を見守り、勝利を見届けると静かにグラウンドに立った。

派手なパフォーマンスはしないで選手を立てる、試合後、今大会で監督退任を明らかにした監督を、選手たちは慕って走って来た。そして歓喜の輪の中で10回もの胴上げに宙を舞う栗山監督の姿があった。

栗山英樹監督は人を引き寄せる「人間力」みたいな持主のようである。飾らず、気遣いを欠かさない人柄のようで、気さくな人とも言われている。

栗山監督の自宅は北海道栗山町で25年前に移住しており、普段は長靴にジャンパー、毛糸の帽子姿で地元の商店街を気さくに歩くらしい。地元の人々が言うには「こんにちは」などといいながらコンビニで買い物をしたり、いばらないこしの低い人のようなのである。

栗山監督と栗山町の縁は1999年(平成11)青年会議所(JC)の創立記念イベントへの出演から始まった。



優勝でベンチから飛び出る「侍ジャパン」の面々



優勝でグラウンドへ出たメンバー達



優勝で集まり、監督を胴上げするシーン



優勝で日の丸を前面に記念写真を撮す「侍ジャパン」のメンバー達

懇親の席で栗山監督が「子供達のための少年野球場を造りたい」と語ったことから町を挙げて夢の実現を応援した事から始まった。2002年(平成14)念願だった天然芝の少年野球場「栗の樹ファーム」が町内に完成し移住となったようだ。

東京学芸大で教員免許を取得した栗山監督は現役引退後、スポーツキャスターを務める傍ら、教育活動にも力を入れて来た。白鷗大(栃木県小山市)では平成16年度から23年度までの8年間にわたり教壇に立ち、今も教授として在籍する。

五輪の体操競技で3大会連続金メダルを獲得した同大の加藤沢男名誉教授(76)は「カリスマ的な雰囲気ではなく、角のない人柄で誰とも垣根をつくらずに付き合っている」そんな人柄だと評した。

研究室には哲学書や歴史書が並び、学内では他の学問分野の教員としばしば語り合う。

勉強家で常に何かを学ぼうという姿勢がある人だともいわれる。

栗山監督がよく口にするのは「夢は正夢」という座右の銘。実現を信じてあきらめなければ夢は正夢になるとよく話している。

一度信じた人を最後まで信じ切る姿勢が、今大会も大きな夢につながったと言えようか。

何かにつけ、テレビの視聴率をウンヌンされる世の中だが、今回のWBCの視聴率を調べて見ると。

3月21日にTBS系で生中継された準決勝日本対メキシコ戦では関東地区の平均世帯視聴率が、42.5%



準決勝で対メキシコ戦にて、9回村上の逆転2塁打



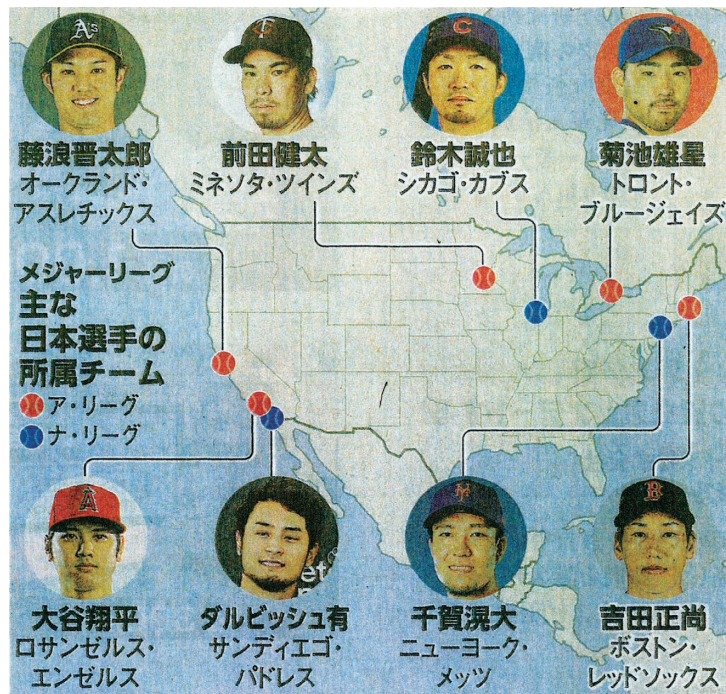
村上のサヨナラタイムリー 9回ウラ

(午前8時25分～正午)ビデオリサーチの調査である。関西地区は同じく平均世帯視聴率36.3%で関東の方が関心が高いのか6%も多いようであった。

関東の瞬間最高視聴率は準決勝戦午前11時44分、45分、47分のいずれも47.7%で村上宗隆が9回に2点二塁打を打ち、日本がメキシコに6-5で劇的な逆転サヨナラ勝ちを決めた場面であった。

WBC中継の平均世帯視聴率(関東)の最高は、3月16日開催の準々決勝(日本-イタリア戦)の48.0%であったといい、日本戦計7試合の内、テレビ生中継を1試合でもリアルタイムで視聴した人は、国内で推計約9,446万人<sup>のほ</sup>に上ったという。

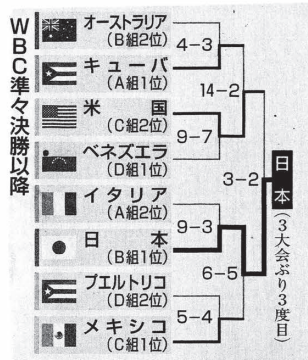
WBC制覇に活躍した「侍ジャパン」参加のメンバーで、アメリカメジャーで活躍の選手達！



この野球の祭典について、評して見る。

野球の楽しさ、面白さと国際大会のすそ野の広さを感じる大会であった。野球界が国・地域別対抗で競うワールド・ベースボール・クラシック(WBC)がわずか2週間に野球、スポーツの豊かさと多様性を改めて実感し、テレビに見入った人も多かったのではないかと。

今大会の日本の戦績	
▼1次リーグ	
9日	○日本 8-1 中国 一回押し出し四球で先制。四回大谷が2点二塁打を打ち、七回は牧がソロ。八回は甲斐の2点二塁打などで4得点。先発の大谷は4回を被安打1、無失点
10日	○日本 13-4 韓国 0-3の三回ヌートバー、近藤、吉田の適時打で4点奪い逆転。五回は近藤がソロ、六回は5得点。先発のダルビッシュは3回3失点、今永は3回1失点
11日	○日本 10-2 チェコ 三回吉田の2点二塁打などで逆転。四回はヌートバー、近藤、大谷の適時打などで4点。八回は牧がソロ。先発の佐々木朗は3回を投げて8奪3振、1失点
12日	○日本 7-1 豪州 一回大谷の3ランで先制。二回はヌートバー、近藤が適時打。先発の山本は4回を被安打1、8奪3振、無失点。大谷が1次リーグB組の最優秀選手に
▼準々決勝	
16日	○日本 9-3 イタリア 三回岡本和の3ランなどで4点先行。五回は村上、岡本和が適時二塁打、七回は吉田がソロ。先発の大谷は4回を2失点、ダルビッシュが救援で2回1失点
▼準決勝	
20日	○日本 6-5 メキシコ 0-3の七回吉田の3ランで追い付く。2点勝ち越された後の八回は山川の犠飛で追い上げ、4-5の九回、村上が2点二塁打を打ち逆転サヨナラ勝ち
▼決勝	
21日	○日本 3-2 米国 0-1の二回村上のソロなどで逆転。四回は岡本和がソロ。先発の今永から小刻みに継投し、八回ダルビッシュ、九回は大谷が登板。大谷は大会MVPに



A組		キューバ	イタリア	オランダ	パナマ	台湾	試合数	勝数	敗数
①	キューバ	●	●	○	○	○	4	2	2
②	イタリア	○	●	○	○	○	4	2	2
③	オランダ	○	○	●	○	○	4	2	2
④	パナマ	○	○	○	●	○	4	2	2
⑤	台湾	○	○	○	○	●	4	2	2

C組		メキシコ	米国	カナダ	英国	コロンビア	試合数	勝数	敗数
①	メキシコ	●	○	○	○	○	4	3	1
②	米国	○	●	○	○	○	4	3	1
③	カナダ	○	○	●	○	○	4	2	2
④	英国	○	○	○	●	○	4	1	3
⑤	コロンビア	○	○	○	○	●	4	1	3

B組		日本	豪州	韓国	チェコ	中国	試合数	勝数	敗数
①	日本	●	○	○	○	○	4	4	0
②	豪州	○	●	○	○	○	4	3	1
③	韓国	○	○	●	○	○	4	2	2
④	チェコ	○	○	○	●	○	4	1	3
⑤	中国	○	○	○	○	●	4	0	4

D組		ベネズエラ	プエルトリコ	ドミニカ共和国	イスラエル	ニカラグア	試合数	勝数	敗数
①	ベネズエラ	●	○	○	○	○	4	4	0
②	プエルトリコ	○	●	○	○	○	4	3	1
③	ドミニカ共和国	○	○	●	○	○	4	2	2
④	イスラエル	○	○	○	●	○	4	1	3
⑤	ニカラグア	○	○	○	○	●	4	0	4

■WBCの4強(カッコ内は監督)

	優勝	準優勝	4強
第1回	日本(王貞治)	キューバ	韓国 ドミニカ共和国
第2回	日本(原辰徳)	韓国	ベネズエラ 米国
第3回	ドミニカ共和国	プエルトリコ	日本(山本浩二) オランダ
第4回	米国	プエルトリコ	日本(小久保裕紀) オランダ
第5回	日本(栗山英樹)	米国	メキシコ キューバ

【米 国】	打安点
ベッツ	5200
トラウト	5100
ゴルドン	4000
アレナド	3100
シュワバ	3100
ターナー	4200
リアルムート	4100
クリス	4000
アンダーソン	2100
ニクニール	0000
ウィット	0000
振球犠併残	840293492

【日 本】	打安点
近藤	4001
藤谷	3000
大谷	3000
村上	3000
岡本	0000
村上	4111
山田	4210
岡本	2000
山田	3100
源田	1100
振球犠併残	780282753

投手	回	安責
ケリー	1 1/3	3 2
ループ	2	0 0
フリーランド	3	1 1
アダム	1	0 0
ベックナー	1	1 0
ウィリアムズ	1	0 0

今 永(D)	2	4	1
郷(臣)	2	0	0
高橋(中)	1	0	2
伊藤(中)	1	0	0
大谷(右)	1	0	1
大谷(左)	1	2	1
大谷(右)	1	0	0

▼ターナー(米)が1大会個人最多タイの5本塁打 21日の決勝で二回1死から3試合連続本塁打となる左越えソロ。2006年の季承

■WBCでの米との対戦成績

06年	2次R	日本●3-4○米国
09年	準決勝	日本○9-4●米国
17年	準決勝	日本●1-2○米国
23年	決勝	日本○3-2●米国

九回表米国2死、トラウト右二塁を空振り三振に打ち取り、優勝を決めた大谷(10)。捕手中村(11)時事

大谷 vs. トラウト「ドラマ」

見守ったエンゼルス監督  
エンゼルスのネビン監督は、今大会の最後を飾った大谷とトラウトによる自軍のスーパースター同士の対決を感慨深く見守ったようだ。米メディアによると、「他のスポーツでは、このようなドラマは生まれない。その点で野球は完璧だと思う」。決勝が始まる前、「世界最高の選手2人が出場する試合を見たくない者などいるだろうか。とても楽しみだ」と述べた。期待

なぜこれほどに盛り上がったのだろうか。何よりプレーの質の高さと技術の進歩や選手達が魅力的だったのではと思う。

時速160キロを超える快速球や、飛距離140メートル級の本塁打に加え、外野手の守備範囲の広さ、盗塁をめぐってタッチを狙う野手と、かいくぐる走者との妙技の応酬など、短期間にめまぐるしく、大会を通して目を離すことができない場面が多くあった。

国際的にみれば、野球は北中南米と東アジアが中心で、その普及は偏ってきたが、大リーガーの多国籍化も進んで来た。

「国際化」では米国育ちの日本代表ラズ・ヌートバー選手もなかなかだった。親のどちらかがその国で生まれるか国籍を持つことでも代表資格を認めるなど、幅が広いこの大会で、選手が語る「母国」への心情とその物語は大変魅力的だった。今回の国籍を超えた共同作業は野球、スポーツの妙味である。

大リーグで過去3度MVPのマイク・トラウト主将が参加表明したことで多くのスター選手が集まった強力な米国チームに競り勝ったのだから、すごいという外はない。なかでもダルビッシュ有投手と大谷選手の参加存在は格別な存在感だといえよう。

キャンプ開始当初から参加したダルビッシュ投手は若手選手と対等に向き合い、柔らかな言動でチー

ムを円滑に動かす化学反応を起こしたようである。二刀流の大谷選手の振る舞いと合わせて、選手達を盛り上げる雰囲気も最高だったと思う。そして選手の力を最大限に引き出す「栗山英樹」監督の判断力とがかみ合っただけの結果だったのだろう。

日本と劇的な準決勝を演じて負けたメキシコの監督マイク・ピアザ氏は「今夜の試合は野球界そのものの勝利だ」と名訓を残した。

### 米国野球殿堂博物館で飾られる品々

日本優勝により

- |                  |                        |
|------------------|------------------------|
| 1. 大谷翔平の帽子       | 決勝で着用し、勝利時にグラウンドに投げた帽子 |
| 2. 吉田正尚のバット      | 本大会で使ったバット             |
| 3. 村上宗隆のヘルメットと手袋 | この大会でかぶったヘルメットと打撃用手袋   |
| 4. 今永昇太のユニホーム    | 決勝で先発した際に着用したユニホーム     |
| 5. 栗山英樹監督のプルオーバー | 決勝で来たプルオーバー            |

同博物館は「世界の野球ファンをとりこにしたチームと大会を永遠に語り継ぐもの」と公式サイトに記した。

明治の初めに米国から日本に野球が伝来してから約150年、WBC決勝の大舞台で以前初めて発祥国と対戦した国民的競技となり、和製ベースボールの成長ぶりを示す結果となった。しかしまだ野球は世界中のスポーツの域に達していないことも再認識。参加国・地域数わずか28、20チームによる本大会も1次リーグではレベル差があり大差試合もあった。しかし、この大会がスポーツ交流史の中で日本伝来150年という歴史と成長ぶりに大谷翔平という偉人も生み、このコロナ禍の中日本中を明るく元気にさせてくれた功績は大変大きい。

記 令和5年4月21日

### 参考資料

日経新聞

産経新聞

朝日新聞

読売新聞

NHK テレビ

TBS テレビ